広報かがみの 6
2023年6月号 第220号 毎月1日発行

シリーズ 第157回

布施神社と布施荘

富西谷にある布施神社は、戦国時代以前は現在の富・奥津・上齋原地域と中谷地区の総鎮守であったとされる由緒のある神社です。『作陽誌』（一六九一年刊）には、東西に並ぶ神殿は大庭郡布施荘八社を勧請（分霊して別の地で祀ること）したもので、それゆえ布施大宮神社と号す、と書かれています。

布施荘とは、現在の真庭市の蒜山地域と湯原・中和にまたがる地域で、古代は布施郷とよばれ、鎌倉時代頃から京都の祇園社の荘園（貴族や寺社の私有地）となり、布施荘とよばれるようになりました。

古代の神社の中で格が高いとされる式内社と呼ばれる神社は、美作国内に十一座あったのですが、そのうち八座が布施荘内で、富地域に隣接する真庭市社地区に存在します。『作陽誌』には、後に布施八社とよばれるこれらの神社を総称して布施神社と呼び、これを分霊したものが富の布施神社であるとしています。また、京都の仁和寺の古文書には「美作国布施社」という神社が出てくるのですが、この布施神社、布施社の違いは何なのでしょう。

岡山大学名誉教授の藤井駿氏は、この布施社は蒜山にある福田神社であると述べています。その根拠としては、福田神社が鎌倉時代の古文書に「郷の宮」と書かれていることから、これが布施郷（布施荘）の中心的な神社であったためと推定しています。

一方、中世史研究家の中野栄夫氏はこの説を否定し、富の布施神社こそが仁和寺文書に出てくる布施社であるという説を掲げています。その理由については長くなるので割愛しますが、『富村史』の中で、中世史において布施荘と布施社は無関係で、布施社は当時は富美荘（当時の富地域の呼び名）にあったと結論付けています。

しかしその後の研究により、布施社が仁和寺の管轄下にあったことや、真庭市社に「仁和小路」など仁和寺にちなむ地名なども存在することが明らかになり、布施社は社地区にある式内八社の総称であったとの説が有力です。

では、富の布施神社は『作陽誌』に書かれているとおりこの社地区の八社を勧請したものなのかといえば、それも定かではなく、中野氏はその逆ともいえる興味深い説を出しています。

苫田郡は平安時代の貞観五年（八六三）に東西に分割され、苫西郡・苫東郡の二郡となるのですが、その分割に際して大庭郡布施郷の一部であった富地域が苫西郡に属することとなったという説があります。確かに苫田郡の中で、富地域だけが旭川水系に属していますので、地理的にみれば大庭郡に属していたとしても不自然ではありません。中野氏は大庭郡布施郷の一部（富地域）が苫西郡に属したことにより、富地域内にあった一部の神社を大庭郡内の社地区に勧請したのではないかと推定しています。

前述のように、美作国内の十一座の式内社のうち、美作国の中心地から遠く離れた社地区に八つの式内社があるということが不思議に感じます。これらの社は他所から勧請して社地区に集まったのであろうことは数々の研究者も推定していますが、富の布施神社がこれら式内社とどのような関係であるのか、そして苫田郡分割以前の布施郷と富地域のつながりはどうであったのか、残念ながらこれらを決定づける史料はありませんが、古代・中世の富地域の歴史を研究する上では、非常に重要なポイントです。

布施神社（富西谷）

福田神社（真庭市蒜山）

社地区の式内社（真庭市社）

参考：『富村史』『作陽誌』「美作国布施荘について」「美作国布施荘・布施社・富美荘について」

鏡野町教育委員会　生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/